



2024年度 昭和大学 II期

【 講 評 】

文法問題1題と長文問題2題の構成はI期および昨年度と同じ。また、I期よりやや易化した点も昨年度と同じである。長文の文章量に大きな変化はないが、一昨年、昨年と続いた100字の要約が姿を消し、それにより記述の負担が少し軽減した。また迷うような問題もないので、英語は短時間で高得点を確保し、数学勝負ということになるだろう。目標点は75~80%程度。[1]の文法・語彙問題は昨年度の4択式から5択式となった。レベルはやや易~標準。基本問題ばかりなので取りこぼしのないようにしたい。例年、譲歩の表現が比較的多い印象を受けるが、本年度も9. *come what may*, 10. *notwithstanding*, 13. *Try as she might* と3問も出題された。[2]は「動物の意思伝達と人間の言語の相違点」に関する長文読解問題。レベルは標準。80字と40字の説明問題があるが、どちらもまとめやすい。[3]は「PTSDになりやすい悲観主義」に関する内容の長文読解問題。レベルは標準。こちらも解答に悩む問題はない。*This pattern* を説明したうえで和訳する融合問題が出題された。

【 解 答 ・ 解 説 】

[1]

1. B association

「受動喫煙とガンには立証された関連性があると研究は示している」

・ association between A and B 「A と B の関連性」

2. A designated

「だれが社長の後を継ぐよう指名を受けると思いますか」

・ be designated to do 「…するように指名される」

3. C made

「このプロジェクトに対して、メアリーは多大な貢献をした」

・ make a contribution to A 「A に貢献する」

4. C turn

「彼女はいったいどうやってその状況をチャンスに変えたんだ」

・ turn A to B 「A を B に変える」

5. D occur

「あのときは助けを求めるなんて思いもしなかったんだ」

・ occur to A 「A の頭に思い浮かぶ」

6. D meet

「締め切りに間に合わせるために今日は残業しないといけない」

・ meet the deadline 「締め切りに間に合わせる」

7. B of

「私たちは議題の変更を知らされていない」

・ inform A of B 「A に B を知らせる」

8. A hesitate

「この件について何か情報が必要になったら遠慮なく連絡してください」

- ・ hesitate to do 「…するのをためらう」

9. A may

「たとえ何があっても彼女は自分のことは自分でできるだろう」

- ・ come what may 「たとえ何があっても」

10. A notwithstanding

「負傷しているにもかかわらず、彼はホームランを放ち、チームは勝利した」

- ・ A notwithstanding / notwithstanding A 「Aにもかかわらず」

11. A resign

「彼女の提案は、できるだけ早く社長が辞任することだ」

- ・ 〈命令・提案・主張・要求〉を表す that 節 (that S (should) do)

12. A otherwise

「彼らはフランス行きの無料チケットを 2 枚手に入れた。そうでなければ、行く余裕はなかつただろう」

- ・ otherwise 「そうでなければ」

13. C as

「試してみたけど、彼女にはその箱を持ち上げることはできなかった」

- ・ 〈動詞の原形+as+S may〉 「…したけど」

14. C regards

「メアリー『あなたと話せてよかったです。ご家族にもよろしくお伝えください』

「ジョン『ありがとうございます。そうします』」

- ・ give one's regards to A 「A によろしくと伝える」

15. D had I known

「ジョン『待たせてごめんなさい。高速道路があんなに渋滞しているのを知っていたら、もっと早く家を出たのに』」

「メアリー『大丈夫よ』」

- ・ 仮定法過去完了
- ・ if の省略による倒置形

[2]

1. their communicative message

- ・ 下線部を含む文は「他の生き物はどのようにコミュニケーションのメッセージを生み出しているかについての内省はなく、またそれ (コミュニケーションのメッセージ) がどのように機能している (いない) かを回想することもないと私たちは考える」という意味になる。

2. B That is

- ・ that is 「つまり」

3. C invent

- ・ 第 4 段落 3 文で「(人間以外の動物は) 新しい経験を伝えるための新しい信号を生み出すことはできない」と述べられていることから、空所に「新しいものを創り出す」の意味の invent を入れ、「ミツバチは言葉を生み出せない」とすれば文意に合う。

4. 「ベルベットモンキーは身近に迫った危険を知らせる合図は持っているが、意味が固定されているため、空中からヘビが接近するような新しい経験を伝えることはできないから。」(80字)
5. 「新しい意味を持つ発話を無限に作り出せる複雑な体系の音声と構造を持つという特徴。」(39字)
- 6.
- (A) F 「内省は犬のコミュニケーションの際立った特徴である」
- ・第2段落6・7文で、内省は人間の言語に特有であるという趣旨が述べられているため F となる。
- (B) T 「蜂蜜が水平方向の場所に置かれていたら、ミツバチはそれを見つけたかもしれない」
- ・第4段落9・10文で、ミツバチは水平方向に関するコミュニケーション能力しかないという趣旨が述べられているため T となる。
- (C) T 「メスの蛾から出されるフェロモンには、1つの決まった意味しかないことが知られている」
- ・第5段落3文で、メスの蛾のような昆虫が出すフェロモンにはつがいを探す1つの意味しかないと述べられているため T となる。
- (D) F 「キツネザルは限られた数の合図を用いて、新しい表現を無限に生み出すことができる」
- ・第6段落1文で、キツネザルは3つの基本合図しか持たないと述べられているため F となる。
- (E) F 「ベルベットモンキーは頭上を飛ぶヘビのような物体を見たとき、危険を知らせる CHUTT-RRAUP を送れなかった。なぜなら、新しい危険信号を生み出すのに時間がかかるからだ」
- ・新しい危険信号を生み出すのに時間がかかるという記述は本文中にないため F となる。

[3]

1. B even worse

- ・空所の前文で「この考え方は幸福の妨げになる」と述べられ、空所に続く文で「それが PTSD のリスク要因である」とあるため、空所に「さらに悪いことに」の意味の even worse を入れると文意に合う。

2. ⑤ likely, ⑧ to

[almost four times as likely as noncatastrophizers to get PTSD]

- ・ be likely to do 「…する可能性が高い」
- ・ almost four times as...as 「およそ4倍」

3. B civilian

- ・ civilian 「民間の、一般市民の」

4. B optimistic

- ・ optimistic 「楽観的な」
- ・ 空所に「楽観的な」の意味の optimistic を入れると「もし極端な悲観主義者であるなら、悪い出来事によってより大きなダメージを受ける。もしその反対、つまり楽観的な考え方であるなら…」となって文意に合う。

5. 「最初に起こりうる最悪の事態を想定し、次に起こりうる最高の事態を想定し、最後に最も可能性の高い事態をその対処法とともに想定していくことで、兵士の中で精神的な回復力が培われた」

6.

(1) C 「私は最も弱いグループに入っている。死ぬに違いない」

- ・ 空所直前の「悲観した」から判断する。

(2) B 「私はとても健康だから、きっとすべて免れるはずだ」

- ・ 空所直前の「最良の結果」から判断する。

(3) A 「できる限り人との接触を避け、すべてのワクチンを接種し、軽症で済ませよう」

- ・空所直前の「最も起こりそうなことに集中し、それに備える」から判断する。

7. D catastrophization

- ・空所を含む文は「これが体系的に極端な悲観主義を減らす方法だ」という意味。

8. C despite

- ・空所に「…にもかかわらず」の意味の前置詞 despite を入れると「不確実性にもかかわらず幸福を維持し、精神的な回復力を育む」という意味になり文意に合う。

精神文化

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>